

## 再婚したお父さん夫婦が招かれた結婚式

公益社団法人家庭問題情報センター 山口 恵美子

相談室では、ご自分だけでは解決できずに悩んでいる方といっしょに解決の道を探るお手伝いをしています。そのため、いつも何となく重苦しい話題になりがちですが、今回はご自分たちで解決できた面会交流の明るいお話を紹介してみたいと思います。

**カ** (カウンセラー) 本多さん(仮名)は、

父親としてずっとお子さんたちとの交流を続けていらしたと伺いましたが、協議離婚してどのくらい経ちますか。

**父** 離婚した当時は子どもたちが小学生でしたから、もう二十年以上になります。いまは孫も三人います。

**カ** 最近民法が改正され、協議離婚後の親子の交流を法律が後押しする時代になりましたが、当時としては珍しかったでしょうね。

**父** 離婚は夫婦間の問題で、子どもには全く責任がありません。その一点では夫婦は全く同じ考えでした。

そこで、両親で子どもたちに託びた上で、離婚後は父親である私は電車で一駅の隣街に暮らすから、来たいときに自由にきてくれればよいと伝えました。そうは言ったものの、実際には訪ねて来ることはあまりないだろうと思っていました。

ところが、毎週、週末には二人してやってくるのです。内心驚き、うれしかったですね。同時に、食べがかりの男の子二人の二日半分の食事作りや買い物、仕事の合

間に毎週続けるのは予想以上に大変でした。母親の日常の大変さを遅ればせながら理解することができたとも言えます。

**カ** 頑張りましたね。離婚の際に、子どもに責任がないことを両親揃って伝えられたこと、交流を子どもの意思に任せ、おそらく背後にお母さんの支援があったと思わ

れることが、長く自然体で交流が続けられた秘訣でしょうね。

残念ながら世間では、せいぜい、置手紙を残して、母子が突然蒸発し、父とは二度と顔を会わせたくないというのが多いです。

**父** たしかに。でも、かわいい子どもでも受けるべきでしょう。子どもも一個の人格だから。そして、別れても親としてできることはしてやりたいと思ったのです。

**カ** いっしょに暮らしていたときの父子の関係がとてよかったですね。それだけでなく、多くの両親はご自分の利害、怒りや被害感情にとらわれて、子どもの人格を尊重するという考えは、飛んでしまっていることが多いのに、よく冷静に対処できましたね。

**父** ありのままを言わせていただければ、少し出来すぎのように感じるのですが。子どものために一生懸命自分をコントロ

ールする努力をしたのは事実です。でもそのようにできたのは、私自身の育ちが関わっているかもしれません。

私は日本で育ち国籍も日本で、風貌もかなり日本人ですが、父親はアメリカ人なのです。父は子どものころから私をひとりの人格として扱ってくれました。日本人夫婦の家庭文化とは違っていたように思います。

でも、思春期、青年期には、日本人でもない、アメリカ人でもない自分のアイデンティティに悩みました。そして、「何人（なにじん）」とは関係のない、「個」としての自分というアイデンティティを見出してようやく落ち着きました。ある在日韓国人の友人からも自分と同じアイデンティティを聞かされました。個としての生き方では、体裁や外聞に左右されず、自分の考えに自信をもち、きちんと自己主張しますが、責任も負います。

幸い日本には協議離婚という自己決定できる制度がありますから、子どものためにできることを母親と話しあって離婚することができました。

**力** 人は悩みや苦しみを乗り越えたときに本当の自分になれるのですね。感動しながら伺いました。とても大切なことを聞かせてくださいますありがとうございます。

「個」としての確立の弱い日本社会での

離婚の話し合いや合意の履行の難しさが、理解できるような気がします。また、大人同士であれば、協議離婚も捨てがたいよさがあることもわかりました。

ところで、本多さんは再婚なさったそうですね。

**父** ええ。再婚するときには、子どもはすでに大学生になっていました。再婚の話に対して息子たちは言うてくれました。「男やめめの老後をどうしようと兄弟で話し合っていたけれど、これでその心配がなくなった」と。

**力** いつの間にか、お父さんの方が子どもに心配されていたんですね。優しい息子さんたちですね。

**父** 再婚の式にも来てくれました。その後、イタリア語のできる再婚相手といっしょに、息子たちは友人も連れてイタリア旅行にも行きました。

**力** その後、息子さんの結婚式には、本多さんは再婚相手とともに招待されたそうですね。

**父** 私だけでなく、元妻も再婚しましたので、結婚式には三組の親が呼ばれました。

もう、誰にもわだかまりのない、子どもたちの縁でつながった子どもたちの応援団のようなものですね。

**力** そういのがステップファミリーというのでしょね。

日本の再婚は、スクラップ・アンド・ビルドといって、壊れた家族を作り直すという考えが強いのです。再婚したら義理の親が実親になり変わる努力をしたり、なり変わる役割を期待されるため、新しい親子に力が入りすぎて、かえってぎくしゃくすることがあります。最近まで、実親との面会交流も否定されるのが普通でした。

少子化で子どもの数は減り、家族のサイズが小さくなりすぎている昨今、子どもにとっては、愛情を注いでくれる人間の輪は小さいより大きい方がよいですよ。

**父** 自分の経験ではそう思います。どう頑張っても一人でできることは知れていますから。

この間、孫が遊びに来てこんなことを言ってくれました。「僕たちのパパとママには、実家があるんだって。おじいちゃんの所とおばあちゃんの所とママのばあばの所だよ。遊びに行くところがたくさんあってうれしいな」。

**力** 人の不幸は、どこに住むかより、どうつながるかということにありそうですね。

今日は協議離婚の仕方を考える上で、とても参考になる貴重なお話を伺うことができました。ありがとうございます。

